



OITA MEDICAL CENTER

# 大分

57号

平成28年夏

大分市横田2丁目11番地45号  
独立行政法人 国立病院機構 **大分医療センター**  
編集発行 広報誌編集委員会  
大分医療センターホームページアドレス  
<http://nho-oita.jp/>



日本の滝百選に選ばれた東椎屋の滝は、日光華厳の滝に似ているところから、「九州華厳」と称されています。高さ85mの断崖を落下する様は圧巻です。

東椎屋の滝（大分県宇佐市安心院町）／撮影：経営企画室長 田辺 俊介

## 基本理念

OITA MEDICAL CENTER

最新の医療技術・知識の修得に励み  
病める人の立場に立ち  
人の尊厳・権利を尊重し  
「愛の心・手」で  
最良の医療サービスを提供します

## 基本方針

- 一 365日24時間断らない診療を目指します
- 一 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 一 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 一 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 一 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 一 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

## 目次

『看護の日』イベントを開催して .....	2	第2回 がん川柳冊子 刊行! .....	8
看護職員就職説明会に参加して .....	4	スプリングコンサート .....	9
大分県臨床研修病院合同説明会の開催 .....	4	大分医療センター美術館 .....	9
「第4回 大分医療センター市民セミナー」を開催して .....	5	夏だ! サマーコンサート! .....	10
出張! なんでも出前講座!! in 大在地区 .....	6	編集後記 .....	10
健康教室に参加して .....	6		
がん患者リハビリテーション研修に参加して .....	7		



# 『看護の日』 イベントを開催して

看護業務委員長

佐藤 裕美

5月12日「看護の日」は、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、1990年に旧厚生省により制定され、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに全国各地でイベントが行われています。

当院でも地域の方々にもっと「大分医療センターの看護」を身近に感じてもらえたらと思い、例年実施している「ふれあい看護体験」の他に、「看護の日」イベントを初めて開催しました。看護業務委員が中心となり、イベントの企画、内容の検討を行い、5月10日（火曜日）に外来フロアで「大分医療センター保健室」を開設し、実施しました。内容は、健康相談・看護相談、測定コーナー、病棟紹介や当院看護師の写真展、ミニコンサート等、元気溢れる看護部を紹介、外来患者さまのほか、約50名程の方に来場いただきました。なかでも一番好評だったのは、外来から病棟へのアプローチゾーンに掲示した当院看護師の笑顔の写真展でした。来場者の方から「看護師さんの笑顔を見て心が和みます」「白衣の天使ですね」等、有り難いご意見を頂き、照れ笑いの職員も嬉しそうでした。また測定コーナーでは、「メタボチェックできてよかった」「ゆっくり関わってくれて、相談できるし、いい企画ですね」等、気軽に保健室に寄っていただくことができました。病棟紹介ポスターは、それぞれの個性が光る力作揃いで、イベント後も各病棟に掲示しアピールしました。

またイベント会場の一角で、遠藤優希副看護師長によるミニコンサート～電子オルガン演奏～を行いました。そして楽しくレクリエーションできる輪投げゲームも取り入れました。輪を投げて思った場所に飛ばすのは、想像以上に難しいです。見事成功した方には、天然石のひょうたんストラップを進呈、これも山本看護師長の手作りです。「芸は身を助ける」といいますが、「特技をもった看護師は病院を助ける」お二人には、感謝です。

近隣の高校生を対象とした「ふれあい看護体験」には、18名を受け入れ、各病棟でそれぞれ看護見学や実際の看護援助を看護師とともにに行い

ました。手洗いチェックや老人体験等、実際に経験することで、「一人ひとりに合わせた対応をすごいと思った」「看護師の仕事はきつくて笑っていないイメージだったけど、笑顔で接していて素敵な職業と思った」「動き続けて大変だけどやりがいのある仕事で、看護師になりたい」とプラスイメージになった学生がほとんどでした。「看護の日」を通して、私達も地域の方々や高校生から元気をもらった一日となりました。

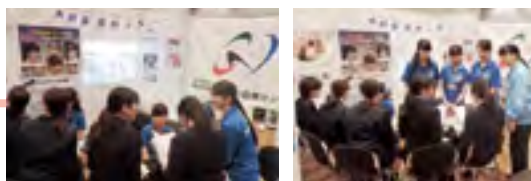
当院の理念である『愛の心・手』で、地域の中で、最良の医療サービスが提供できるように今後も活動を行っていききたいと思います。







# 看護職員就職説明会に参加して



5月7日に開催された国立病院機構九州グループ主催の看護職員就職説明会に参加しました。今年度から各県での就職説明会はなくなり福岡での開催となりました。3月に一度、福岡での就職説明会が終了していたことから、今回はブース来場者も少ないのではないかと不安がありましたが、大分県のみならず、福岡、佐賀、宮崎、山口県から参加した看護学生が話を聞きに来てくれました。

1年目・2年目看護師を中心に自分たちの経験を語りつつ当院の魅力をアピールしてくれたおかげで、学生も真剣に話を聞いてくれ、説明会終了後には実際に当院へ施設見学に来てくれた学生もいました。多くの方が大分医療センターに興味を持ってくれ、『ここで働きたい』と願ってくれることを期待しています。



## 2階病棟 1年目看護師 三宮 瑞貴

就職説明会に参加しました。昨年、私もこの就職説明会に参加して当院への就職を決めました。そのため、今回説明をする側で参加できることをとても嬉しく感じました。看護学生からの質問に答える中で当院の魅力を伝えるとともに、自分自身も当院の魅力を再確認することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。来年度、たくさんの看護学生が当院に就職してくれることを楽しみにしています。

## 4階病棟 1年目看護師 橋本 苑果

今回、福岡で開催された就職説明会に参加させて頂きました。当院のブースに来てくれた学生と関わっていると自分が学生の時に参加した就職説明会のことを思い出しました。その際、先輩看護師の話聞き、この病院に魅力を感じたのを覚えています。私が学生の時に感じた魅力を同じように説明会に来てくれた学生たちにも伝えられたら良いと思います。

今回、学生と関わることで学生の頃の気持ちを思い出すことができました。そして当院の魅力を再認識でき、とても良い経験となりました。

## 3階病棟 2年目看護師 十時 美緒

今回、NHOの就職説明会に参加しました。大分医療センターのブースに来てくれた学生と話をしながら、学生の時の気持ちを思い出しました。学生の頃から目指していた「患者さんの心に寄り添える看護師」になれるよう、日々患者さんと関わっていく中で成長していきたいと実感しました。

# 大分県臨床研修病院合同説明会の開催

庶務班長  
岡部 達枝

平成28年6月19日(日)大分県臨床研修病院合同説明会が全労済ソレイユで開催されました。

院長・副院長・奈須先生とともに、山下先生・的野先生が今年は参加してくださいました。まずはモチベーションを上げるため法被を羽織り「大分医療センター」をアピールします。

病院プレゼンテーションは各病院が3分間で病院のPRを行うことができます。今年作成した「診フロ」を持参し放映しました。山下先生の絶妙なタイミングでのコメントで学生の心をつかんで頂き、放映はあっという間に終わってしまいました。

ブース別での説明が開始されましたが、なかなか学

生が寄ってきてくれません。そこで他のブースが終了した学生を見つけては「診フロの大分医療センターです。ブースに来てみませんか？」とお誘いを掛けてみると大半の学生は診フロの言葉に興味を持ってきていました。

当日は参加者46名のうち21名がブースに来て説明を聞いて行かれました。学生アンケートには「アドバイスを頂けた」「外科に魅力を感じた」との意見があったとの事です。ぜひ将来大分医療センターで外科医師として働いて頂きたいと思いますがまずは研修医として来て頂きたいと思います。





# 「第4回 大分医療センター市民セミナー」を開催して

経営企画室長  
(地域医療連携係長)

田辺 俊介

平成 28 年 5 月 28 日 (土) 地域住民を対象とした市民セミナーを当医療センターで開催しました。今回で 4 回目の開催の運びとなり、テーマは「自分の生活習慣を見直そう!」を掲げ、受付が始まり参加者の滑り出しが悪く心配していましたが、無事終了することができました。講演では①喫煙による肺の病気(一宮呼吸器内科部長)、②緩和ケアのおはなし(廣田がん性疼痛看護認定看護師)、そして大分東医師会の若林脳神経外科クリニック院長 若林先生による「脳卒中について」講演を頂きました。参加された方から積極的に質問を頂き、日々の生活習慣について真剣に自分と向き合っている様子を感じとれました。講演会の他にも、看護部、検査技師の方々にご協力を頂き、身長・体重測定、乳がん触診模型を使用した体験、肺年齢測定などの健康チェックが行われ、また医療相談コーナーでは、肺年齢やがんについて相談が多数ありました。

最後に、これから高齢化がますます進む中、地域医療を支える病院として市民の方々の健康維持に役立つ企画を、今後も考えていきたいと思えます。



院長挨拶



肺年齢測定



測定コーナー



奈須部長



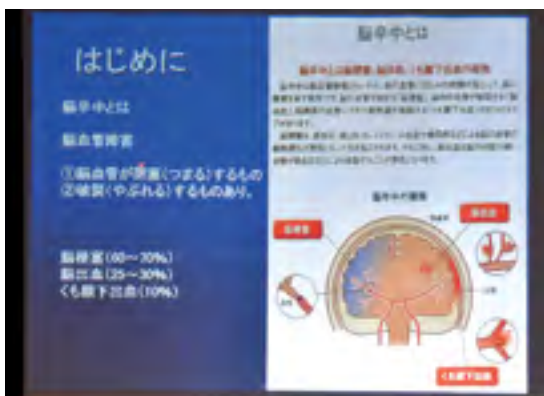
一宮部長



廣田看護師



若林脳神経外科院長



第 4 回

## 大分医療センター 市民セミナー

平成 28 年 5 月 28 日 (土)

14 時 00 分 ~ 15 時 30 分

会 大分市横田 2 丁目 1-45  
場 国立病院機構 大分医療センター会議室

入場無料

テーマ: 「自分の生活習慣を見直そう!」

**1. 講演**  
(14:00~15:30)

**2. 健康相談**  
(15:30~16:00)

**3. 「健康チェック」コーナー:** ①血圧測定 ②身長・体重測定 ③肺年齢測定 ④乳がん触診模型体験

座長 奈須 伸吉  
呼吸器内科部長 一宮 朋来

①「喫煙による肺の病気～肺がん・COPD・喘息など～」  
呼吸器内科部長 一宮 朋来

②「緩和ケアのおはなし～事例を通して～」  
がん性疼痛看護認定看護師 廣田 紘子

③「脳卒中について」  
若林脳神経外科クリニック (大分東医師会) 院長 若林 礼浩

がん専門の医師や看護師、医療ソーシャルワーカーが貴方の健康の悩みを解決します。

主催: 国立病院機構 大分医療センター TEL: 097-593-1111  
共催: 一般社団法人 大分東医師会

## 出張!なんでも出前講座!! in大在地区

管理課長 三宅修二

先日、別府医療センターから電話があり、「大在地区の住民の方から自院のホームページを見て出前講座をお願いしたい旨の依頼があった。」とのこと。大分医療センターの縄張り?を荒らす事は出来ないのでは、当院を紹介して頂きました。(当院の知名度って??)

それが縁で、6月15日(水)に大在公民館で出前講座を開催しました。ご年配の方が多いため『お薬』について話を聴きたいとのご要望があり、大久保副薬剤部長の出番です。

なんとと言っても昨年度、機構病院のQC表彰で全国特別優秀賞を受賞した薬剤部の講座です。はじめは緊張されていた30名余りのお年寄りの方々も、大久保副薬剤部長のやさしく丁寧な口調にすぐに会場は和やかな雰囲気になりました。特に「錠剤を誤ってシートのまま飲まれるお年寄りが多いんです。」との場面では「え〜っ!」という驚きと笑い声に包まれていました。(皆さんの事ですょ〜)

お昼の時間にも重なり、帰りにはお手製のカレーライスまでご馳走していただきました。(ありがとうございました。)

今回は歩いて5分の大在公民館であり、もっとも当院のアピールの必要性、ホームページの重要性を感じるこ



とが出来ました。これをきっかけに他の部門での出前講座も行っていけたらと思いますので、職員の皆様のご協力をお願い致します。



### 内服薬の正しい使い方 (錠剤)

#### ポイント!

良い飲み方は、少量の水で薬を飲み込み、その後残りの水を一気に飲む。そうすると、食道にも引っかからず、胃の粘膜にくっついて胃を荒らすこともありません。

シートから薬を取り出すことを忘れずに!



## 健康教室に参加して

リハビリテーション科 理学療法士 山田大輔

各地で介護予防の取り組みが行われているなか、当科にも大在地域包括支援センターより介護予防教室の講師依頼があり平成28年6月15日にケアマンションはなぞのにおいて山下真由子運動療法主任と2名で健康教室を開催してきました。参加者は31名で女性30名、男性1名でした。

内容は、「転倒転落予防について」と題し、転倒転落の原因や予防策についての講話と転倒転落予防の体操、最後にレクリエーションとして風船バレーを行いました。講話中はうなずきながら聴講される参加者が多く、また講話の中に立ち上がり動作の模擬体験を入れたことで参加者の緊張も解け、場の空気が和む場面もありました。体操時にはこちらの号令に合わせて参加者からも掛け声を頂きましたし、レクリエーションでは予想以上に白熱し、大いに盛り上がりました。全体を通して、

参加者の方々が介護予防への意識が高い方も多かったため、コミュニケーションも取りやすく、真剣に取り組んでくださいました。また大在地域包括支援センターやケアマンションはなぞののスタッフのご協力もいただき、教室もスムーズに進行することができました。この教室を実施し、達成感を得られたと同時にこうした取り組みを継続し、多くの方々に参加して頂く必要があると感じました。

今後も、積極的に参加し、地域の介護予防に貢献していきたいと考えます。





# がん患者リハビリテーション研修 に参加して

リハビリテーション科  
理学療法士

溝口 智紀

5月14～15日にかけて東京で行われた「がんのリハビリテーション研修」を受講して参りました。がん患者リハビリテーション（以下、がんリハ）を始めるには、医師、看護師、リハビリスタッフがチームで参加することが要件となり、今回は穴井副院長初め、2階病棟加来看護師、梶原理学療法士長、私の4人で参加してきました。当院は大分県がん診療連携協力病院であり、がん患者様の治療を積極的に行っております。リハビリについても手術や化学療法・放射線治療を行っている患者様へ手厚く、そして質の高いリハビリテーションを提供すべく、がんリハを始めようとなったのがきっかけでした。

研修では、がんのリハビリテーションの概念から周術期、化学療法のリハビリテーションについて、心のケア、グループディスカッションなど多岐に渡り、大

変充実した内容の研修でした。研修に参加していた他の施設では既にごんリハの運用を始めており、第2陣、第3陣の参加施設がほとんどで、新規開始の施設は当院含め少数でした。

手探りの中、6月より運用を開始し、外科の先生方や2階病棟看護師の皆さまにご協力を頂きながら、徐々に体制を整えているところです。6月のがんリハオーダー数は約30件ありました。今後は他病棟からもオーダー依頼数が徐々に増えてくると予想され、がんリハに関わるスタッフ増員も必要と思われます。まだまだ運用上の問題も多く、患者様に質の高いリハビリが提供できていない所もあるかと思いますが、がんリハチームが団結して多職種と連携しながら、満足度の高いリハビリが提供できるよう関わらせて頂きたいと思っております。



国立看護大学校の前にて

# 第2回 がん川柳冊子 刊行!

がん相談支援センター  
岡 江 晃 児  
廣 田 紘 子

がん患者さんやがん患者さんを支えている家族・知人・支援者等が、がんまつわるエピソードや日頃の思いを、五・七・五の十七音の形式の川柳にのせて、感情表出を行い心のケアを行うことやがん川柳の思いを地域・社会へ発信し、がん患者さん等の思いを共有することを目的に、平成27年3月に第1回目のがん川柳集を発刊しました。本冊子は、院内配布・掲示は勿論のこと、がんチャリティーイベントや当院以外のがんサロンや一般書店、県立・市立図書館の設置等の様々なところで発信することができ、がん川柳を通して多くのがん患者さんやがん患者さんを支えている家族、知人、支援者の方々と『がん』の思いを繋ぐことができました。そして、昨年度全国からがん川柳を募集し、この度第2回がん川柳集を無事刊行することができました。ただがん川柳を紹介するだけでなく、がん川柳に秘めた作者の思いをメッセージという形で掲載したり、私たちの活動を全国から応募してくれた方々に知ってもらえるように写真付きで紹介しました。また第2回の冊子では、読者の声のページを新たに設けたり、表紙も気軽に取りやすいポップなデザインへ一新し、がん川柳集冊子を手にとった一人一人にとって大切な冊子になれるよう作成しました。本冊子を通して多くの方々に『がん』の思いを共有できることや皆さんの心の支えになってくれることを願っています。



## 優秀作品

前向きに  
生きこる姿勢を  
子に見せる  
兵庫県

ガン告知  
雁はとぶねと  
孫がいい  
大分県  
ガン・パロー



癌で知る  
人の心の  
ありがたさ  
大分県

朝がきた  
生きてる悦び  
かみしめる  
なんにも仙人

告知受け  
家族の絆  
ありがたさ  
大分県



# スプリングコンサート

医療サービス向上推進委員会

梅雨真っ直中の6月20日(月)に、ちょっと遅れのスプリングコンサートを開催しました。今回は、月2回当院の外来ホールでボランティア演奏会を開催していただいている『パール・ブルー・アンサンブル』の3名の演奏からのスタートでした。

数々のナツメロの中から、【れんげ草】【満州娘と麦と兵隊のメドレー】【夕焼け雲】の曲目で和ませていただきました。尺八・しの笛とアコースティックギターという異色の組み合わせは非常に耳に心地よく、患者様のみならず飛び入りの保育園児たちも魅了していました。穴井副院長先生の突然のアンコールの発声に、急遽、追加演奏までしていただき、本当にありがとうございました。

第2部は、昨年につきMHS音わか“小田佳代子先生”による音楽療法です。これは音楽の持つ生理的・心理的・社会的な効果を応用して、心身の健康の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的計画的に行われる治療的、教育的技法の事です…と、難しいことは抜きにして、とにかく楽しい音楽健康法です！特に今回は観客が高齢のお爺ちゃん、お婆ちゃんから保育園児までの年齢差に小田先生もビックリされていましたが、まさに老若男女を問わずみんなが楽しめるひとときとなりました。時間的な余裕がなく小田先生にはかなり無理をしてプログラムを構成していただき、大変感謝しております。



短い時間ではありましたが、患者様も治療・療養中であることを忘れられる楽しい時間を共有できたのではないのでしょうか。

医療サービス向上委員会では今後も引き続き様々な企画を計画中ですので、職員の皆様のご協力をお願いします。

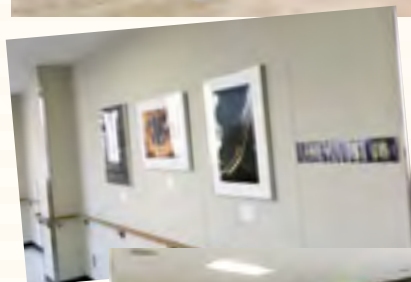
## 大分医療センター美術館

医療サービス向上推進委員会

院内には100号サイズ超大作の油絵からA4サイズの写真まで100点以上もの絵や写真が至る所に飾られています。寄付して頂いたものからお借りしているものまで様々ですが、最近では外来ホールに『森洋一様』から頂いた大きな絵を飾りました。かなりインパクトのある絵なので皆さんも絵の前で足を止められたのではないのでしょうか？

また、外来から病棟へ通じる廊下の両サイドには『白井一生様』からの写真を飾らせて頂いております。“写路”と名付けられたそのエリアは、単調になりがちな病院の白い廊下の雰囲気を変えてくれていることは皆さんお気づきでしょう。

絵を見て怒る人はあまりいないでしょう。ピカソの数億円の絵の意味は分からなくても、園児が書いた母親の不格好な似顔絵に心安らぐ人はたくさんいると思います。絵にはそんな秘められたすごい力があることを誰もが知っているから、自然に当院にも絵や写真が増えていったのかもしれないね。今、日本文理大学の美術部の学生さん達が『少しでも患者さん達の心の安らぎになれば…』との思いから、当院のために絵や書道・陶芸作品を作成中です。完成したら展覧会を開催しようと密かに計画中ですので、どうぞ、お楽しみに…。



# 夏だ！ サマーコンサート！

医療サービス向上推進委員会

職員みんなが楽しみにしている？サマーコンサートを7月28日（木）に開催しました。

恒例となった『津久見檜の実少女少女合唱団』です。その実力たるや4月に定期演奏会、12月の「ほらほらコンサート」を中心に大分県内の公演やいろいろなイベントで数多くの演奏活動を実施されており、まさにご当地アイドルです。団員数は幼稚園児から大学生まで、総勢100名以上！今回はその中の40数名（まるでTKM48？）の皆さんにお越し頂きました。合唱の曲目は『翼をください』に始まり、『花』『サザエさん』等々、誰もが口ずさめる10曲以上の歌を“天使の歌声”にのせて病院中に患者さんのもとに届けます。

特に今回は、病棟のテレビと外来ホールのテレビへコンサート風景を生中継し、病院全体がまるでコンサートホールのように天使の歌声に包まれていました。

また団員の少年少女が患者さん一人一人に寄り添って歌いかける姿は微笑ましく、みんなを笑顔にしてくれます。最後は伝統の『扇子踊り』も披露していただき、感動のコンサートとは終了となりました。

津久見檜の実少女少女合唱団の皆さんには、お忙しい中、夏休み返上で患者さんのために開催して頂き、本当に感謝、感謝です。ありがとうございました。

職員一同、患者さん以上に来年も楽しみにお待ちしております。



## 大分医療センターのロゴマークについて

### 全体のコンセプト

Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

- 「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
- 「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
- 「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



## 編集後記

テレビでは、4年に1度の大舞台に人生を賭けたアスリートの戦いが繰り広げられています。特にパラリンピックは、もはや別競技、別種目のスポーツと言える程の迫力を今年感じました。皆さんも、ハンデに関係なく、その一瞬の栄光のために4年間血のにじむ努力を成し遂げた選手の迫力に心を打たれたのではないのでしょうか。いよいよ東京でその迫力を生で感じる機会が4年後にやってきます。このアスリート達のように、その4年後の自分を想像して、何か目標を持って努力するのも良いかもしれませんね。長いようで短い4年、1,461日はもう始まっています。あなたは何を始めますか？（とりあえず、1日100円づつ貯金すれば、往復の旅費と開会式の入場料分は貯まるかも...）。  
編集委員一同

## 編集委員

### 委員長

穴井 秀明 (副院長)

### 委員

- 姉川 俊也 (事務部長)
- 中村 雄介 (臨床研究部長)
- 竹之内須賀子 (副看護部長)
- 山本真由美 (教育担当師長)
- 高瀬 由香 (2階病棟副看護師長)
- 三宅 修二 (管理課長)
- 田辺 俊介 (経営企画室長)
- 内田 信也 (業務班長)
- 生野 充章 (専門職)
- 米丸 淳一 (給与係長)
- 岡江 晃児 (医療社会事業専門職)